



5-5. 日常生活での緊急時の対応

親と子のPDマニュアルから抜粋

在宅での生活で最も心配になるのは、日常生活における緊急時の対応です。事故やそれに伴う体調悪化などを未然に防ぎ、安全に安心して在宅で暮らすためには、危険の予測と予防が重要となります。日ごろから、できる限り危険が生じないようにケアを行い、万が一事故が起きたときにどうするか対応策を考えておきましょう。また、カテーテルトラブルや腹膜透析関連感染症（出口部感染や腹膜炎など）を早期に発見できるように、腹膜透析の原理と頻度の高い合併症について理解しておきましょう。

1) 環境整備と透析中の安全確保、清潔操作について

腹膜透析を行うお子さんが生活する自宅の環境整備は、カテーテル抜去や感染を起こさないようにするためにとっても重要となります。ベッドや透析機械の配置などの室内環境や、透析実施中の安全確保ができるように、家族と一緒に整備を行います。透析実施の際に不潔な操作をしたり、カテーテル出口部のケアをおろそかにすると、腹膜炎やカテーテル周囲の感染症を起こすため注意が必要です。掃除の行き届いた、きれいな明るい部屋と正しい手洗いの方法で、清潔に操作や透析治療を行えるようにしましょう。また、緊急時に使用する物品はすぐに使えるよう、透析機械のそばに配置しておく必要があります。



2) 透析機器、接続機械の点検

使用する透析機械は、定期的に点検し、不具合があればただちに修理を医療機器メーカーに依頼して代替品を準備する必要があります。気になる点があるときは後回しにせず、早期に対応することで、事故を回避することができます。機械についてのトラブルや不明な点がある場合は、医療機器メーカーのコールセンターに連絡しましょう。

3) 緊急時の連絡確認

主治医や救急外来、病棟看護師など施設によって異なるので、主治医にどこに連絡をするべきか確認しましょう。かかりつけの医療機関・医療機器メーカー・訪問看護ステーション・祖父母など支援者の連絡先が書かれた一覧表を作成し、目に入りやすい場所に貼るなど、家族や支援者にわかるようにしておきます。

また、救急車を要請する際に必要な情報（自宅の住所・電話番号・お子さんの医療情報・救急搬送時に必要な物品など）が書かれた「連絡シート」を作成しておき、緊急時にあわてず、迅速に対応できるようにしておきます。

4) 異常に気がいたら早めに受診

出口部感染、トンネル感染をそのままにしていると、腹膜炎を起こす可能性があるため、発熱・排泄の混濁・出口部の発赤などの感染のきざしに気がいたら、早めに医療機関に連絡しましょう。痛みが強い場合は夜間や休日でも受診し、早く必要な処置が受けられるように対応します。また、機械操作の間違えや発熱などの感染兆候があった場合には一番どこに連絡をするべきか、事前に確認しておくことも必要です。

5-6. 災害対策

1) 災害への備え

地震や台風、火災などの災害はいつでも起こりうるため事前に準備をしておき、慌てないことが大切です。病院によっては災害発生時は救急患者対応のため、慢性疾患患者を診られなくなることもあります。自分の身は自分で守ることを考えてください。政府は、電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備え、飲料水や非常食を最低3日分、東海地震をはじめとした大規模震災の可能性があるエリアでは1週間分以上の備蓄を呼びかけています。下記の首相官邸のホームページを参考に準備をしておきましょう。



<https://www.kantei.go.jp/headline/bousai/sonae.html> (2023年11月現在)

また、バクスター社の「PD患者さんのための災害対策マニュアル」も参考にすることをお勧めします。

https://www.baxterpro.jp/sites/g/files/ebysai771/files/2019-03/pd_disaster.pdf (2023年11月現在)

(1) 腹膜透析の準備について

- ・災害時の治療メニューを主治医と確認しておきましょう。
- ・避難用物品をすぐに持ち出せるよう、透析器・透析物品・透析液・薬などをまとめておきましょう。水害の場合を考慮し、接続機器は普段から高さのある場所に置くことが望ましいです。
- ・一般的な非常用持ち出しセットに加えて、以下の物品を準備しておきます。透析液は3日以上あることが望ましいです。
 - ・保険証のコピー、その他医療券のコピー、お薬手帳(携帯電話で写真に撮って保存しておく、簡単で便利です)
 - ・内服薬
 - ・飲料水
 - ・予備のミルク(必要な方のみ)
 - ・お尻拭き or お手拭き
 - ・懐中電灯(ランタン式が便利)と予備の電池
 - ・マスク
 - ・緊急時クリップ(輪ゴム)
 - ・はさみ
 - ・透析液、S字フック、はかり(お持ちの方のみ)
 - ・保護キャップや保護チューブなど
 - ・出口部消毒セット(消毒薬、ガーゼ、テープなど)
 - ・手指消毒液、ウェットティッシュ



なお、停電時に備えてCAPD操作と接続機器に応じた手動による方法など災害時の使用方法を覚えておきましょう。使用する機器によって違うので注意が必要です。

2) 緊急連絡先、避難先について

災害に備え、主治医と家族間で以下のことを事前に確認しておく必要があります。

- 災害時の避難経路
- 家族の連絡先・集合場所
- 地域の避難場所
- 緊急連絡先：どこに連絡をするべきか主治医に確認しましょう。
- 各透析機器会社：透析機器メーカーは緊急時の連絡先を設定しています。連絡先がすぐわかるようにしておくとともに、災害発生時には一番初めに連絡を取ることを目指して下さい。

3) 災害が起こってしまった場合について

(1) 災害時の行動の流れ

図2を参考にして下さい。自宅で生活が継続可能であれば、そのまま自宅で行います。

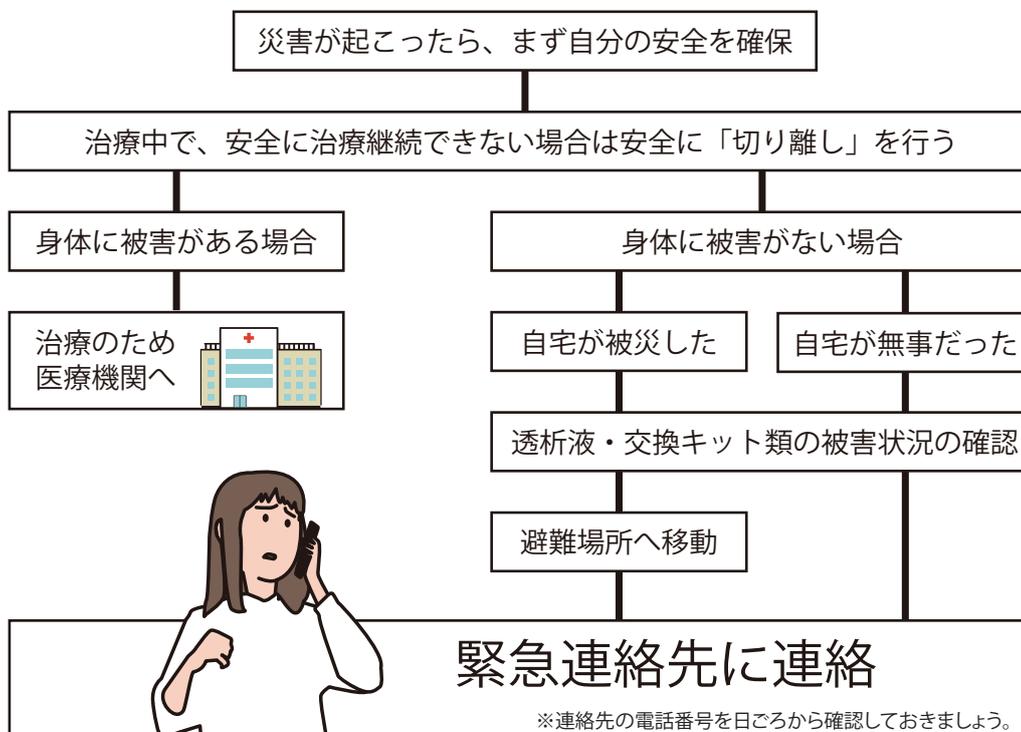


図2

(2) 病院への連絡

災害時は電話が非常に繋がりにくいことが予測されます。連絡が繋がった際にはお子さんの被災状況と体調、腹膜透析物品や透析液の在庫の有無、避難場所等を医師へ伝えましょう。

(3) 災害時に避難場所や自宅等で腹膜透析を行う場合

- 避難場所で腹膜透析を行う場合には、腹膜透析中であることを伝え、可能な限り安全で清潔な場所の提供をしてもらいましょう。自家用車内も安全とされています。
- 腹膜透析や出口部消毒操作時の手洗いが難しい場合には、手指消毒で代用してください。
- 透析液の温めは、使い捨てカイロやビニール袋に入れてお湯で温めるなどで、代用してください。
- 腹膜透析中に地震が起きた場合は透析を終了し、身の安全を確保してください。

4) 食事

食事は食べられるものを摂取し、エネルギーを確保することが大切です。水分は制限しすぎないようにします。透析用具を持ち出せなかったり、透析を通常通りにできない場合があるため、たんぱく質、カリウム、塩分の摂取に注意します。特にカリウムは、可能な限り控えます。

(例) 野菜ジュース、果物ジュース、生野菜、果物(配給されるバナナなどカリウムが多いので注意)
桃缶や乾パンなどの準備をしておくことも良いでしょう。

※ミルク：注入は準備可能なら通常通りの注入、ミルクを継続します。準備できない場合はミルクの注入量と同量のポカリスエットなどのイオン水を注入します。

5) 内服

飲まないと身体に影響がでるものと短期間であればあまり影響がでないものがあります。主治医と相談し、事前に災害時の対処について相談しておく必要があります。



1日も早い、日常への復帰を祈っております。

本pdfは、日本小児PD・HD研究会が作成した、
親と子のPDマニュアル2023から抜粋したものです。
マニュアル全体はこちら(下記webページやQR code)から、
入手可能です。

<http://jsped.kenkyuukai.jp/special/?id=26500>

なにかお気づきの点がございましたら、研究会までご連絡ください。
jsped.sec@gmail.com

